



メディア ターミネーション ポイント の設定

メディア ターミネーション ポイント ソフトウェア デバイスを使用すると、Cisco Unified Communications Manager は、SIP または H.323 エンドポイントあるいは SIP または H.323 ゲートウェイ経由でルーティングされるコールをリレーできます。メディア ターミネーション ポイント デバイスは、DTMF または RSVP 要件に応じて割り当てることができます。RSVP 用にメディア ターミネーション ポイントを割り当てる場合は、SIP または H.323 デバイスなど、あらゆるタイプのエンドポイント デバイス間にメディア ターミネーション ポイントを挿入できます。

メディア ターミネーション ポイントは、ソフトウェアのインストール中にサーバにインストールされる Cisco ソフトウェア アプリケーションです。メディア ターミネーション ポイント デバイスを設定するサーバ上で Cisco IP Voice Media Streaming App サービスをアクティブにして開始する必要があります。サービスのアクティブ化および開始については、『Cisco Unified Communications Manager Serviceability アドミニストレーションガイド』を参照してください。

データベースに定義されている各メディア ターミネーション ポイント デバイスは、Media Resource Manager (MRM; メディア リソース マネージャ) に登録されます。MRM は、システム内で使用可能なメディア ターミネーション ポイントの総数、および使用可能なリソースがあるデバイスを把握しています。

リソースの予約時に、MRM はリソース数を決定し、メディア リソース タイプ (この場合はメディア ターミネーション ポイント) および登録済みメディア ターミネーション ポイント デバイスのロケーションを特定します。MRM は、登録情報を使用して共有リソース テーブルを更新します。

メディア ターミネーション ポイントとトランスコーダは、同一の Cisco Unified Communications Manager に登録できます。詳細については、P.69-1 の「トランスコーダの設定」を参照してください。

各メディア ターミネーション ポイントは、登録先の Cisco Unified Communications Manager を、優先順に並べたリストを受け取ります。各メディア ターミネーション ポイントが一度に登録できる Cisco Unified Communications Manager は 1 つのみです。



(注)

SIP エンドポイントの機能によっては、Cisco Unified Communications Manager で SIP コールを発信するときに、RFC 2833 DTMF 準拠のメディア ターミネーション ポイント デバイスが必要になることがあります。RSVP コールの場合は、エンドポイント デバイスに関連付けられた Media Resource Group List (MRGL; メディア リソース グループ リスト) に、RSVP をサポートするメディア ターミネーション ポイント デバイスを含める必要があります。

メディア ターミネーション ポイントを追加、更新、および削除するには、次のトピックを参照してください。

- [メディア ターミネーション ポイントの検索 \(P.65-2\)](#)
- [メディア ターミネーション ポイントの設定 \(P.65-4\)](#)
- [メディア ターミネーション ポイントの削除 \(P.65-6\)](#)
- [関連項目 \(P.65-7\)](#)

メディア ターミネーション ポイントの検索

ネットワーク内にはいくつかのメディア ターミネーション ポイントが存在することがあるので、Cisco Unified Communications Manager では、固有の条件を指定して、特定のメディア ターミネーション ポイントを見つけることができます。メディア ターミネーション ポイントを見つける手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco Unified Communications Manager の管理ページでは、ブラウザ セッションでの作業中は、メディア ターミネーション ポイントの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、メディア ターミネーション ポイントの検索設定は保持されます。

手順

ステップ 1 [メディアリソース] > [メディアターミネーションポイント] の順に選択します。

[メディアターミネーションポイントの検索と一覧表示 (Find and List Media Termination Points)] ウィンドウが表示されます。アクティブな (前回の) クエリーのレコードも、ウィンドウに表示されることがあります。

ステップ 2 データベース内のすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認し、[ステップ 3](#) に進んでください。

レコードをフィルタリングまたは検索する手順は、次のとおりです。

- 最初のドロップダウン リストボックスから、検索パラメータを選択します。
- 2 番目のドロップダウン リストボックスから、検索パターンを選択します。
- 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。



(注)

検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。条件を追加すると、指定したすべての条件に一致するレコードが検索されます。条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして最後に追加した条件を削除するか、[フィルタのクリア] ボタンをクリックして、追加したすべての検索条件を削除してください。

ステップ 3 [検索] をクリックします。

一致するすべてのレコードが表示されます。[ページあたりの行数] ドロップダウン リスト ボックスから別の値を選択して、各ページに表示する項目の数を変更できます。



(注) 該当するレコードの横にあるチェックボックスをオンにして [選択項目の削除] をクリックすると、複数のレコードをデータベースから削除できます。[すべてを選択] をクリックして [選択項目の削除] をクリックすると、この選択対象として設定可能なすべてのレコードを削除できます。

ステップ 4 表示されたレコードのリストで、表示するレコードのリンクをクリックします。

(注) リストのヘッダーに上矢印または下矢印がある場合、その矢印をクリックして、ソート順序を逆にします。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

追加情報

P.65-7 の「[関連項目](#)」を参照してください。

メディア ターミネーション ポイントの設定

メディア ターミネーション ポイントを追加、コピー、または更新する手順は、次のとおりです。



(注)

この手順を実行するには、Cisco Unified Serviceability を使用して Cisco IP Voice Media Streaming App サービスをアクティブにする必要があります。サービスのアクティブ化については、『Cisco Unified Communications Manager Serviceability アドミニストレーションガイド』を参照してください。

始める前に

次の条件を満たしていることを確認してから手順に進んでください。

- サーバが設定済みであること。
- デバイス プールが設定済みであること。



(注)

Cisco Unified Communications Manager サーバごとに割り当てることができるメディア ターミネーション ポイント デバイスは 1 つのみです。Cisco Unified Communications Manager サーバを追加すると、メディア ターミネーション ポイント デバイスがサーバ用に自動的に作成されますが、そのデバイスは Cisco IP Voice Media Streaming App サービスがアクティブになるまで使用できません。

手順

ステップ 1 次のいずれかの作業を行います。

- メディア ターミネーション ポイントを追加するには、[メディアリソース] > [メディアターミネーションポイント] の順に選択します。[メディアターミネーションポイントの検索と一覧表示 (Find and List Media Termination Points)] ウィンドウが表示されます。[新規追加] をクリックします。
- メディア ターミネーション ポイントをコピーするには、[メディアリソース] > [メディアターミネーションポイント] の順に選択します。[メディアターミネーションポイントの検索と一覧表示 (Find and List Media Termination Points)] ウィンドウが表示されます。コピーするメディア ターミネーション ポイントの横にある [コピー (Copy)] アイコンをクリックします。
- メディア ターミネーション ポイントを更新するには、P.65-2 の「メディア ターミネーション ポイントの検索」の手順を使用して、メディア ターミネーション ポイントを見つけます。

ステップ 2 適切な設定値を入力します (表 65-1 を参照)。

ステップ 3 [保存] をクリックします。


追加情報

P.65-7 の「関連項目」を参照してください。

Cisco IOS Media Termination Point の設定値

表 65-1 では、Cisco IOS Media Termination Point の設定値について説明します。

表 65-1 Cisco IOS Media Termination Point の設定値

フィールド	説明
[メディアターミネーションポイントタイプ (Media Termination Point Type)]	<p>[Cisco IOS Enhanced Software Media Termination Point] を選択します。</p> <p>このメディア ターミネーション ポイントのタイプに関する詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「メディア ターミネーション ポイント」を参照してください。</p>
[メディアターミネーションポイント名 (Media Termination Point Name)]	<p>メディアターミネーションポイントの名前を最大 15 文字の英数字で入力します。</p> <p> ヒント ゲートウェイのコマンドライン インターフェイス (CLI) で既存の同じメディア ターミネーション ポイントの名前を入力してください。</p>
[説明 (Description)]	メディアターミネーションポイントの説明を入力します。
[デバイスプール]	一番高い優先度をもつデバイスプールを選択するか、または [Default] を選択します。

追加情報

P.65-7 の「関連項目」を参照してください。

メディア ターミネーション ポイントの削除

メディア ターミネーション ポイントを削除する手順は、次のとおりです。

始める前に

現在使用されている、メディア リソース グループ内の最後のデバイスであるメディア ターミネーション ポイントを削除する場合は、事前に、次の作業のどちらか一方または両方を実行しておく必要があります。

- 削除するメディア ターミネーション ポイントを使用しているメディア リソース グループに、別のメディア ターミネーション ポイントを割り当てる。P.70-2 の「[メディア リソース グループの検索](#)」を参照してください。
- 削除するメディア ターミネーション ポイントを使用しているメディア リソース グループを削除する。P.70-6 の「[メディア リソース グループの削除](#)」を参照してください。

手順

ステップ 1 P.65-2 の「[メディア ターミネーション ポイントの検索](#)」の手順を使用して、メディア ターミネーション ポイントを見つけます。

ステップ 2 削除するメディア ターミネーション ポイントをクリックします。

ステップ 3 [選択項目の削除] をクリックします。

次の警告メッセージが表示されます。

「1 つ以上のメディア ターミネーション ポイントを完全に削除しようとしています。この操作を取り消すことはできません。

続行しますか？」

ステップ 4 [OK] をクリックして、メディア ターミネーション ポイントを削除します。

このメディア ターミネーション ポイントがメディア リソース グループ内の最後のデバイスである場合、メディア リソース グループは空のグループとして残ります。

ステップ 5 [OK] をクリックします。

追加情報

P.65-7 の「[関連項目](#)」を参照してください。

関連項目

- [メディア ターミネーション ポイントの検索 \(P.65-2\)](#)
- [メディア ターミネーション ポイントの設定 \(P.65-4\)](#)
- [メディア ターミネーション ポイントの削除 \(P.65-6\)](#)
- [関連項目 \(P.65-7\)](#)
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「トランスコーダ」
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「メディア ターミネーション ポイント」
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「Resource Reservation Protocol」

